平成7年3月18日

"鳥を含めた自然との共生"をテーマ

# 『小鳥がさえずる公園』開園

豊島区で、同区としては初めての試みである「鳥を含めた自然との共生」をテーマにした公園『小鳥がさえずる公園』（約１１２０平方m・千早３－１４）が、区内で５０番目の公園として開園し１８日、地元の千早三丁目町会（田島金次郎会長）、「みんなで公園を大切にしていく会」（稲垣鍈一事務局長）の主催で、現地に関係者を集め開園式が行われた。

『小鳥がさえずる公園』は、特色ある公園づくりの一環として平成４年度から建設が進められてきた。敷地を大きく東西に二分割し、東側は観察広場、西側は池を中心としたサンクチュアリを設けるとともに、クスノキ、ヤマモモなど野鳥が食べる実のなる植物やブッドレア、ノイバラなどの昆虫が吸う蜜を良く出す植物を植栽し、自然本来の姿を鳥や昆虫などを通して見るための公園と位置づけている。

同区では、この公園を皮切りとして、既に用地取得が済んでいる「池袋の森」「目白の森」についても、『小鳥がさえずる公園』と同じコンセプトで整備していくとしている。

※　　※　　※

今回『小鳥のさえずる公園』として整備された土地（旧清原いま邸）は平成元年１月に保護樹林として指定されていた。ところが、平成２年に所有者の都合で保護樹林指定が解除され、樹林は伐採された。この直後、現地千早３丁目の住民から再び緑豊かな場所に戻して欲しいという要望があり、豊島区は「小鳥がさえずる公園」用地として取得することを決め、平成４年６月同地を取得するとともに同年の区制施行６０周年記念事業として位置づけ、整備を進めてきた。この間、小鳥が来るような公園を造るという観点から、同区では地元区民と一緒に、約２か年間見学会や検討会など延べ６回の勉強会を行って設計を進めてきた。また、開園と同時に、同区内で初めて公園愛護団体「みんなで公園を大切にしていく会」が発足。今日の開園式も同会と地元町会主催で行われており、自然が次第に失われていく大都会の中で、小鳥のたくさん集まる公園を、地元区民と行政が一体となって育てていこうとしている。なおこの公園には、１００トンの防火貯水槽が設置されている。総工費は、用地費を含めて１４億７８２３万円。

詳細　公園緑地課